

平成30年度 学校評価書

学校名：和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名：勝本 泰弘

目指す生徒像	○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成 ○平和を愛し、人権やルールを大切にす人間愛に満ちた生徒の育成 ○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成
--------	---

本年度の重点目標 ○安全教育の推進 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	・自他の安全に配慮して安全な行動がとれるよう、安全教育を推進する。
	・基本的生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。
	・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。
	・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。

達成度	A 十分に達成した(80%以上)
	B 概ね達成した(60%以上)
	C あまり十分でない(40%以上)
	D 不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価
安全教育・安全管理 学校安全計画に基づき、年間を通して、各教科やホームルーム活動、学校行事等で安全教育に取り組んでいる。災害から命を守る知識や判断力を高めるため、救急救命講習の実施を検討する。	ホームルームやアセンブリー等で安全教育・安全指導を行っている。また、学習環境の安全点検・整備を毎月初めに実施している。昨年度は地震対応に津波対応も加え避難経路を見直して避難訓練を実施、防災・安全教育の充実を図った。	今年度は9月19日3、4限に地震と津波を想定した停電下での避難訓練を行う。その後、視聴覚室で住宅耐震化と家具転倒防止対策の重要性を伝えるDVD鑑賞で、感想文を書かせる取り組みを行う。生徒は迅速に行動できたが、緊張感が不足していたと思われる。	避難訓練を実施するにあたり、今ある知識だけでは限界があるので、外部の県危機管理 危機管理・消防課に電話して防災訓練の「出張！減災教室」の実施について話を伺うも利用まで至らなかった。	B	救急救命講習を実施することが今年度の課題だったが出来なかった。次年度に持ち越しの課題となる。また、避難訓練に緊張感を持たせる工夫が必要である。	定期的な安全点検や避難訓練に加え、交通安全指導の徹底と外部人材を活用した防災教育並びに救急救命講習等も実施すべきである。
生活指導 自分自身で持ち物を管理することが不得手であったり、時間に対する概念がおおらかな生徒や授業に対する集中力を持続させることが苦手な生徒が多い。また、自転車・原付通学の生徒も多く、交通安全指導の徹底も重要である。	基本的生活習慣を身につけ、社会の一員として十分な資質を身につけられるよう家庭、地域、関係機関とも連携して取り組む。また、外部講師を招いて交通安全講話や薬物乱用防止講座等を開催し、いのちの大切さや他者への思いやりを学習し、実践する。	定時制の特長を活かし、生徒の個性に合わせたコミュニケーション手段を用い、教育相談やカウンセラーとも情報共有することでいじめ等を未然に防ぐことができた。外部講師の講話においても生徒たちが主体的に参加し、真剣に耳を傾けることができた。	ホームルーム活動を通じて、学校での生活習慣の見直しや登下校時の安全について指導の充実を図る。また、学校行事等の内容を充実させ、クラス及び学校全体で親睦を深め、交流を広げることで社会性や協調性を身につけることができるよう指導していく。	A	交通安全、たばこ・薬物の有害性、スマホやSNS等における情報モラル・セキュリティ・リテラシーの指導を継続していく。今後も生徒への声掛けを大切に、生徒一人ひとりに適した指導を行うことができるよう学校全体で取り組んでいく。	「生きる力」を持った思いやりのある人材育成に期待する。教職員、スクールカウンセラー等連携を密にし、生徒個々に応じた指導を願うとともに、規律正しい生活の更なるレベルアップを期待する。
学習指導 本校入学前に不登校や学校を休みがちであった生徒、基礎・基本的な学力が定着していない生徒及び学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒が依然として多く、そのような生徒たちに対する適切な対応と指導が必要である。また、三修制生徒の「高等学校卒業程度認定試験」の受験による単位修得の負担軽減のため、各種検定及び技能審査合格者に対する単位修得を認定する制度を昨年度設け、生徒た	学び直しの観点から、基本的な学力の定着を目指した補助教材の作成や個々の学力等の状況を考慮した効果的な指導により、学習内容の着実な定着を行う。欠課時数が増加傾向の生徒には随時指導を行い、保護者と連絡を密にし連携を取りながら細やかな指導を行う。また、資格検定に合格すること等を励みにして学習意欲を高めるよう指導する。また、三修制の生徒における負担が軽減するよう増加単位を認定する制度を活用することを促す。	各科目で、中学校までの既習事項等を含めて基本的な学力が着実に定着する授業を実施した。また、生徒たちが学習の楽しさや達成感を感じることができるよう心がけてきた。多くの生徒は、教員の授業に対する熱意を感じ、理解しやすいと感じているようである。夏季休業中に国語、数学、理科、社会、英語、商業の教科で補習講座を開講する等、学習意欲の高い生徒にも対応した措置をとってきた。	引き続き、基本的な学力が定着するように努め、授業の展開方法の工夫やよりよい補助教材の作成する。学力差や多様な個性を持つ生徒一人ひとりが理解でき、授業に積極的に参加しようする意欲を引き出すものにするための工夫も必要である。また、学力の高い生徒や進路希望が明確な生徒に対応するため、授業以外で発展的な学習ができる機会を与える必要もある。	B	生徒一人ひとりの学力に対応した授業と指導が必要である。特に、基礎学力の向上が必要な生徒は欠課時数が多いと思われる、生活習慣と合わせて指導していく必要がある。また、学習意欲の高い生徒については、その進路を保障するためにも、長期休業中の補習講座を継続して、個々の生徒ができる学力を身につけることができる環境を整える必要がある。	社会に出てから必要となる、基礎・基本的な学力とコミュニケーション能力をきちんと習得できる体制を整えて欲しい。
進路指導 4月当初におこなった進路希望調査では、卒業予定者21名のうち、進学希望者4名、就職希望者8名、家業1名、未定者8名であった。未定者が多く、また進学・就職希望者であっても具体的な方向がまだ定まっていないと回答する者が多く、前途多難である。さらに就職については、本年度も指定校求人の見込みは少なく、Web求人等の活用が必要である。	昨年度同様に授業や休憩時間等あらゆる機会をとらえて、粘り強く生徒に声かけをおこなっていくことはもちろんのこと、まずは、ここ数年の進路部の課題となっている「応募前サマー企業ガイダンス」への積極的な参加を呼びかけた。さらに外部講師を招いて働くことの意義や就職支援・自立支援等についての講演を予定している。	本年度の成果として、進路部長年の懸案であった「応募前サマー企業ガイダンス」に7名の生徒が参加し、そのなかの男子生徒が希望していた企業に内定できたことがあげられる。指定校求人ほとんどないなか、少しの可能性も見逃すことなく今後も積極的にこのような機会を生徒に紹介してゆきたい。また4月当初は、進路未定者が多く心配したが、進路部及び当該担任の先生方の働きかけにより、前年度並みの進路決定率を達成することができた。	引き続き、外部組織・機関との連携を密にし、生徒により多様な進路情報を提供できるよう努める。	B	昨年度の反省に基づき、働くことの意義や就職に向けての職業意識の持ち方等について外部講師を招いた講演を実施したところ生徒の反応も良かったので、従来の担任主導のLHRに加え、来年度もこういった形の講演を是非、実施したい。	関係機関との連携を密にし、生徒個々の進路意識を向上させ、希望進路の実現を図って欲しい。